

LEDで地球にやさしい未来をつくる。

第16期 株主通信

IR REPORT

2008年8月1日～2009年7月31日まで

CONTENTS

■ トップインタビュー	01
■ What's CCS	03
■ 第17期経営計画	04
■ 特集	05
■ 財務諸表	07
■ トピックス	09
■ 会社概要／株式の状況	10

シーシーエス株式会社

証券コード：6669



代表取締役社長 米田 賢治

社 是 お客様に愛と感謝
 企業理念 光を科学し、社会に貢献する
 中長期ビジョン 新たな光産業を創出し、
 光の世界企業を目指す

チャンスをとらえて業績を回復させ 同時に新たな事業の柱を構築します

Q1 第16期の決算概況を教えてください。

A 設備投資の落ち込みの影響を受け、
 受注高が大幅に減少

当社の主力事業であるマシンビジョン照明分野において売上構成比が高い電子・半導体、自動車関連は、設備投資の落ち込みにより、国内・海外ともに受注高が大幅に減少しました。

その結果、第16期の連結売上高は3,608百万円(前期比35.6%減)、営業損失915百万円(前期は779百万円の黒字)、経常損失950百万円(前期は765百万円の黒字)、当期純損失784百万円(前期は501百万円の黒字)となりました。

そうしたなか、食品・医薬品関連向けが安定していたほか、太陽電池やリチウムイオン電池などの新エネルギー関連は健闘しました。これまで、お客様からの様々なご要望に、丁寧にお応えしてきた信頼関係と他社には真似のできないライティング・ソリューションのノウハウがあるということで引き合いも多く、また、新エネルギー関連は専門チームを立ち上げるなどの対応も行いました。

このほか、ラインセンサ用LED照明も大きく伸ばすことができました。当社のLEDの制御技術や放熱技術など周辺技術の向上によって明るさがアップしたことに加え、ラインセンサ用LED照明の実験設備を開設して、専任のシステム・エンジニアが対応したことが効果としてあらわれました。

Q2 第17期の業績見通しを教えてください。

A マシンビジョン照明分野は緩やかな回復基調を想定
 新規分野、植物プラント事業を含めて下期黒字化を目指す

当社主力事業のLED照明事業におけるマシンビジョン照明分野は、V字回復ではなく、緩やか回復基調をたどるものとみています。第17期の上期はまだ、前期の影響が残る赤字の見通しですが、主要顧客からの受注に回復の兆しも見えてきております。通期見通しは下期にかけてLED照明事業における新規分野や植物プラント事業などの業績貢献により、黒字化を果たしたいと考えています。

具体的な内容としては、自然光LEDを利用した新製品を中心に目視検査用照明および民生・商業用照明へと展開することにより新規分野を伸ばし、植物プラント事業においては、子会社(株)フェアリーエンジェルを中心に野菜販売事業とプラント販売事業に注力してまいります。

一方、フェアリーエンジェルのレストラン事業に関しては、アンテナショップとしての一定の役割を終えましたので、平成21年9月末で3店舗を閉鎖し、2店舗に縮小することいたしました。第17期は、黒字化のための体制構築に努め、植物プラント販売のビジネスモデルを確立していきます。

これらの施策により、第17期の連結業績は売上高5,550百万円(前期比53.8%増)、営業利益125百万円(前期は915百万円の赤字)、経常利益50百万円(前期は950百万円の赤字)、当期純利益130百万円(前期は784百万円の赤字)を見込んでおります。第17期の配当金につきましては、財務体質の強化と内部留保の充実に考慮したうえで、将来の事業拡大などを勘案し、第16期と同額の1株当たり2,000円(期末のみ)の配当を予定しております。

Q3 LED照明事業におけるマシンビジョン分野の重点施策をお聞かせください。

A 省エネ法改正が追い風、強みを生かし売上高拡大へ

引き続き主力製品であるラインセンサ用LED照明とLED光源ボックス「PFB-20SW」の受注拡大を図ります。省エネ法の改正などが追い風となって、従来使用していたハロゲン照明から、省エネ効果の高いLED照明に置き替える動きが、じわじわと進んでいます。一方、価格競争は年々、激しくなっていますので、原材料・使用部材の共通化、事務の効率化など全体的なコストダウンに取り組み、価格競争力も高めていきたいと考えています。生産性を高めるために、社員ひとりひとりの潜在的な能力を上げていくような仕組みづくりも進めていく予定です。

マシンビジョン照明分野は、カスタム品を含めて4,000種類以上にのぼる製品ラインナップ、300件以上の特許出願件数、90件以上の特許登録件数を誇っています。こうした技術面での優位性に加えて、ソフトの部分を組み合わせたライティング・ソリューション、そしてそれを支える品質、これらが三位一体となって、お客様に最高のサービスをお届けできるということが当社の強みとなっています。このような当社の強みを生かし、売上高の拡大に取り組んでまいります。

Q4 LED照明事業における新規分野はどのような展開を考えていますか。

A 民生・医療など自然光LEDの新たな用途開拓が進展

新規分野で武器となるのは自然光LEDです。顕微鏡・目視検査用、医療用、商業施設用や美術館・博物館用など、これまでに作り上げてきた自然光LEDの技術を世界に積極的に発信していきたいと考えています。自然光LEDの性能が徐々に認知され、4月に発売開始した実体

顕微鏡用LED照明「自然光CNR」は、まとまった台数の受注をいただけるようになりました。また、意外なところで、ジュエリーチェーンの店舗照明に、自然光LEDを搭載した照明を試験的に設置してみたところ、宝石が持つ本来の輝きがよく見えるという結果が得られました。自然光LEDは当初、想定していなかった新しい用途の開拓が次々と進んでいます。当社だけで展開していくのではなく、大手企業とのアライアンスも検討する計画で、今後の成長余地は格段に広がると考えています。

Q5 植物工場の進捗状況を教えてください。

A 「てんしの光やさい」取扱店の更なる拡充、そしてプラント販売本格化へ

野菜事業は事業の立ち上げ段階を終え、「てんしの光やさい」の取扱店舗数の更なる拡大を図るとともに、生産数量・生産品種の増加、生産効率と歩留まりの向上による原価低減に取り組み、収益力を上げてまいります。福井工場（エンジェルファーム福井）の稼働率は順調に向上しています。

最近、行政の取り組みもあり、植物工場が脚光を浴びるようになってきましたが、販売網の確保がネックとなり、大手の参入企業は、まだ限られています。生産と販売の両輪が揃わなければ、事業として成立しません。また、栄養価が高く、美味しい野菜をどのように生産するのかといったノウハウの確立も重要となってきます。子会社（株）フェアリーエンジェルでは、「てんしの光やさい」ブランドで百貨店やスーパーマーケットで販売を行っています。そして、味や栄養価の面でも、消費者の方々からご支持をいただいております。ブランドが浸透しはじめています。事業として、他社よりも先行しているのではないかと思います。

そしてプラント販売事業では、長期スパンとなりますが福井工場レベルの大型プラントは海外での設置に向けて、そして国内

向けは、ミニミニタイプ、小型プラント、中型プラントを顧客のニーズに応じて提案しております。例えば、ミニミニタイプであれば、レストラン内に小さな野菜工場を作り、そこで採れたての野菜を提供するという、ビジネスモデルなどが考えられます。こうした小規模のプラントへのニーズが高く、既に16期に1台納入し、さらに引き合いを多方面からいただいている状況です。17期はミニミニタイプの販売に注力します。

Q6 今後の成長戦略をお聞かせ下さい。

A 環境ビジネスで大きく飛躍できるチャンス

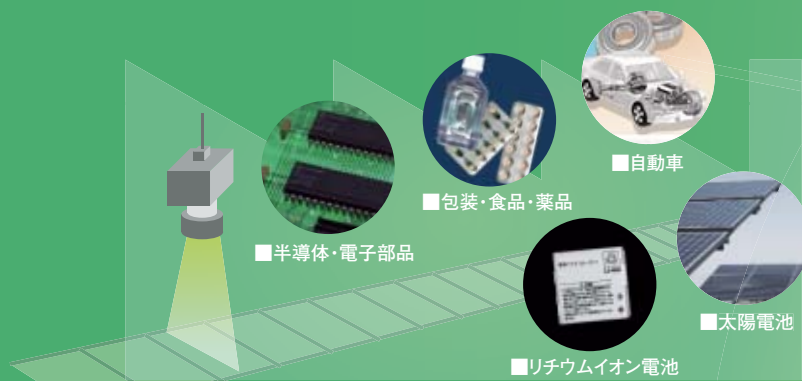
厳しい事業環境が続いていますが、そのなかでも、当社のチャンスは広がっています。それは、環境ビジネスです。今、当社が取り組んでいる事業が、時代の流れにマッチしているのだと思います。今後2～3年で大きく飛躍できるチャンスが訪れるとみています。当社の力だけでその波に乗りきれない部分はあると思いますので、有力企業とタッグを組んで、このチャンスをつかむとともに、成長をさらに加速していきたいと考えています。今後、目視・顕微鏡分野、民生・商業分野、そしてメディカル、バイオ・アグリ分野など新規分野が実際に軌道に乗ってくると当社の将来性は大きく広がってくると思います。チャンスをつかむために、機動性の向上およびガバナンスの強化により、経営のスピードを上げ、光の世界企業として大きく前進していきたいと考えています。株主の皆様には、長期的な視点で引き続きご支援、ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。



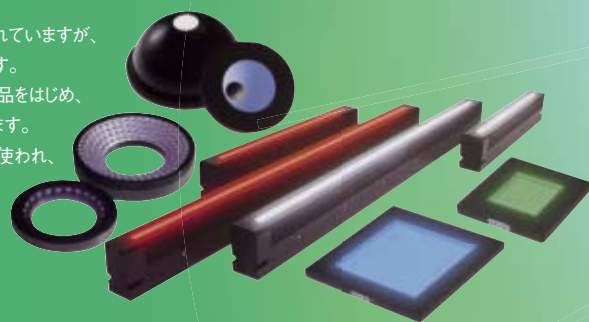
シーシーエスの拡大戦略

人と地球にやさしい世界企業を目指す

シーシーエスは既存分野にとどまらず、様々な分野で
人にやさしく、地球環境にやさしい光ビジネスを展開しています



様々な製品の製造ラインで画像処理技術が活用されていますが、この画像処理の成功のカギを握るのがLED照明です。人間の目は判別が難しい微細で複雑な工業用製品をはじめ、飲料ボトルや食品パッケージなど用途は広がっています。最近では、太陽電池やリチウムイオン電池の検査に使われ、撮像対象物に応じて光の調整が必要となります。



LED光源ボックス

PFB-20SW

100Wハロゲン光源ボックスを超える明るさを実現したLED光源ボックスです。LEDは寿命がハロゲンの25倍以上あり、ランプ交換の手間がかからず、消費電力も約5分の1。ランニングコストをおさえ、CO₂削減効果もあります。

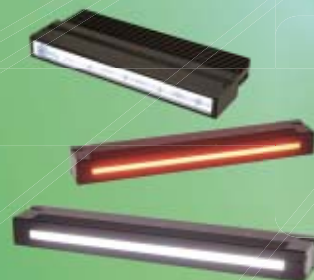
(※当社調べ)

成長ビジネス

マシンビジョン照明分野

シーシーエスは独自のコアテクノロジーに基づいて開発した豊富な照明ラインナップとライティング・ソリューション(光の照射範囲、照射角度、照射波長といった要素を組み合わせた光の当て方のノウハウ)を提供しております。マシンビジョン用LED照明ではリーディングカンパニー(国内シェア57%、海外シェア22%*)となっております。

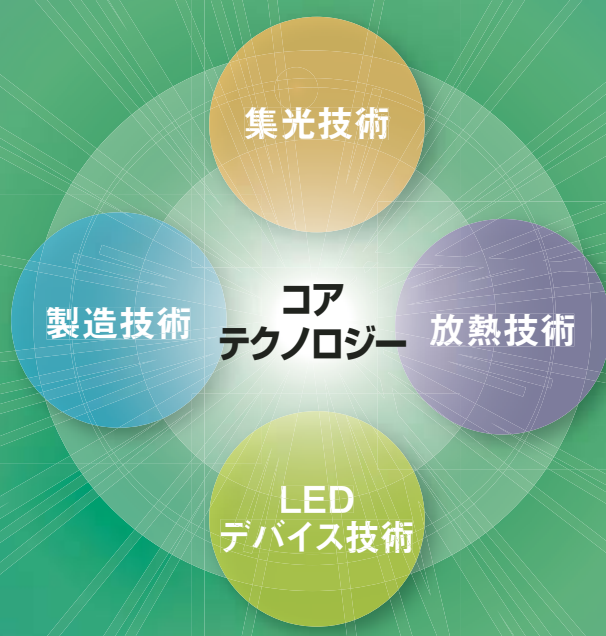
(※当社調べ)



ライン照明

HLND-SW2/HLND/LN/LND

これまで光量の関係で蛍光灯やハロゲンが主流のライセンサカメラ用照明(高速に線で撮像する場合に使う照明)がLED化する中、当社は高出力のLEDライン照明のラインナップとソリューションで幅広い業界へ提案しています。



ライティング・ソリューション

新規ビジネス

マシンビジョン照明分野で培った技術とノウハウを横展開し、ライティング・ソリューションを強みに幅広い分野へ展開しております。さらにLEDデバイス技術を活用してこれまで世の中になかった照明を研究・開発し、製品として提供してまいります。



■目視・顕微鏡分野

作業者の立場に立って明るさ、消費電力など効率性に加え、光の質を追求しています。

自然光CNR

当社が開発した世界一の演色性を持つ自然光LEDを初めて搭載した顕微鏡用LED照明です。高演色に加えて、人の目に負担が少なく、長時間使用しても疲れにくいのが特徴です。製造現場の顕微鏡を使った目視検査市場に向けて拡販します。



■バイオ・アグリ分野

大学や研究所向けに独自開発の植物育成用LED照明を提案すると同時に、植物育成プラントにおけるLEDによる育成技術の研究を進めています。



■メディカル分野

内視鏡用など診断機器をはじめとする治療に必要な光の応用方法を研究しています。



■民生・商業分野

京都の伝統技術とハイテクの融合により開発したLEDゆらぎ照明や商業施設用の自然光LED照明など新たなマーケットを開拓してまいります。

LEDゆらぎ照明

独自の制御技術でLEDを点滅することによって、ろうそくの炎のような自然なゆらぎを再現しました。ホテルや旅館からの引き合いが増えています。

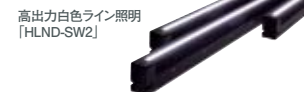


第17期 経営計画

1 マシンビジョン照明分野における更なる事業拡大

製品の進化と提案力の強化により、顧客満足度の最大化をはかります。

- 競争優位性のある新製品とライティングソリューションを合わせて提案
- 成長分野である太陽電池とリチウムイオン電池分野へ注力



2 新規分野のビジネスユニット構築に注力

自然光LED照明技術を核とする戦略商品を早期に開発、上市し、積極的な事業展開を行います。

- 自然光LEDのマーケットを創造する

自然光LED

山口大学との共同研究をもとに当社が開発製造を行うLEDデバイス。太陽光に近い波長を持ち、業界No.1の演色性を達成。高演色に加えて、人の目に負担が少ないこと、対象物を傷めないことなどのメリットがあります。



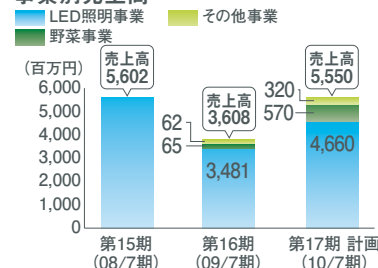
3 植物工場関連のビジネスモデル確立

独自のビジネスモデルで利益体質化に取組み、植物プラントビジネスを本格化することにより、植物工場の普及に貢献します。

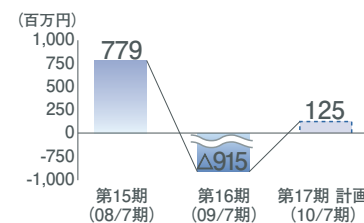
- 独自のビジネスモデルで採算性改善
- 植物工場のノウハウ向上



事業別売上高



営業利益



民生・商業分野におけるシーシーエスの差別化戦略

自然光LEDの特徴を最大限に活かせる分野に特化し、
民生・商業用マーケットを開拓します

■環境に配慮した次世代型照明への切り替えが加速

環境保護に対する意識の高まりを背景に、今、省エネ型の次世代照明として地球に優しいLED(発光ダイオード)照明が注目を集めています。

2009年4月に「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)が改正され、エネルギーの管理が義務付けられる対象が、従来の工場、事業所のみならず小売りチェーンなどにも広がりました。これを受け、コンビニエンス・ストアや外食チェーンなどで、店舗照明を白熱灯や蛍光灯からLED照明へ切り替える動きが進んでいます。また、CO₂排出量の削減を目指し、大手メーカーは相次いで消費電力の大きい白熱電球の製造終了・縮小を決め、LED照明など省エネ型光源への投資を加速していく方針を打ち出しています。

■LED照明のメリット

LEDは2000年頃から、携帯電話や薄型テレビのバックライトなどに使われてきましたが、技術革新が進み、ここ数年で一般照明への採用が一気に広がっています。LED照明は、蛍光灯などの他の光源に比べて、消費電力が少なく、耐久性に優れているため、電気代が低く抑えられるほか、CO₂排出量の削減、交換の手間が省けるといったメリットがあります。

	白熱灯	電球型蛍光灯	LED電球
消費電力	40W	8~10W	4~8W (シーシーエス製のLEDスポットライトは5W)
寿命	1,000時間	6,000時間	40,000時間

※(社)照明学会データ等を参照して当社作成

■自然光LEDの強みを生かし、民生・商業分野に積極展開

当社は2007年に山口大学大学院田口常正教授と共同で、最も太陽の光に近い演色性を持つ自然光LEDの開発に成功しました。現在は、工場の目視検査用や研究に使われる顕微鏡用照明として展開していますが、LED照明に対するニーズがますます高まるなか、今後は、自然光LED技術を生かせる分野に、積極的に展開していく方針です。

自然光LEDの特徴を最大限に発揮して、他社との差別化を図れるビジネス分野のひとつとして、当社では民生・商業用照明分野に注目しています。

商業施設の商品ディスプレイ用、ショーケース用照明



生鮮食品などのショーケース用照明

光源から熱を出さない
生鮮食品を傷めず、店内の空調コストも抑制できます。

こんな見え方が違います！
特に赤い野菜や果物は自然光LEDの光で色が鮮やかに見えます。もちろん、手も自然光LEDのもとでは肌の色がきれいに見えます。

自然光LED	従来の白色LED	蛍光灯

美術館・博物館用照明

紫外線や赤外線を放射しない
貴重な絵画などが変色、劣化するのを防ぎます。

明るい館内で絵画の色を本来の色で鑑賞できます。

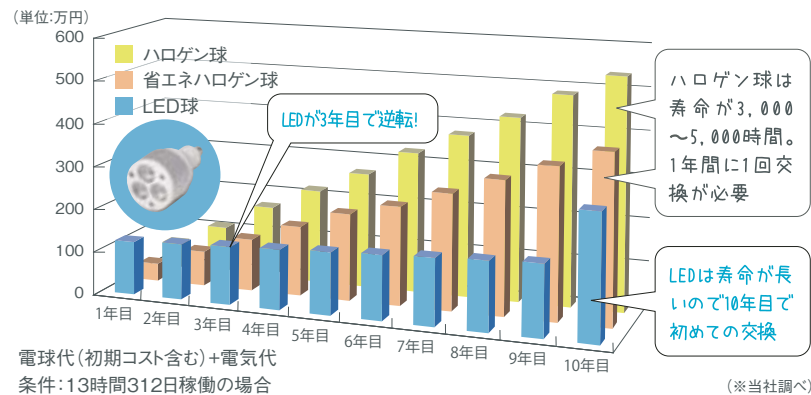
自然光LEDは、LEDのなかで最も目に優しく太陽に近い光でありながら、紫外光領域を含まない非常に安全な光です。この自然光LEDを人々の暮らしのなかに是非、役立てていきたいと考えています。

「天使のカフェ」の全照明をLED化



民生・商業分野開拓のモデル店舗として、子会社(株)フェアリーエンジェルが運営する野菜レストラン「天使のカフェなぎさ公園店」(滋賀県大津市)に、LED照明を導入しました。店内には合計118個のLED照明を設置。自然光LEDは、素材そのものの色合いを観察できるという特長があり、調理場やショーケースに採用しました。店舗用で使われるダイクロハロゲン球に比べて、年間消費電力量は87%カット、CO₂排出量は9.7トンの削減が見込まれます。省エネ型カフェのモデル店舗として実験を進め、今後は商業施設、美術館・博物館などのマーケット開拓に力を注いでまいります。

トータルランニングコスト比較 — モデル店舗導入事例 —

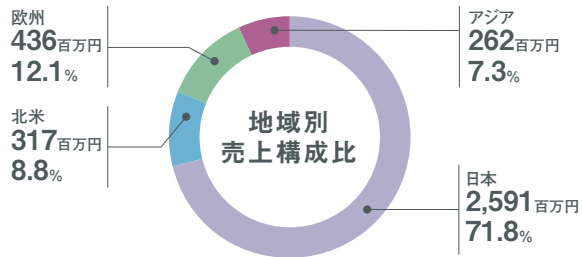
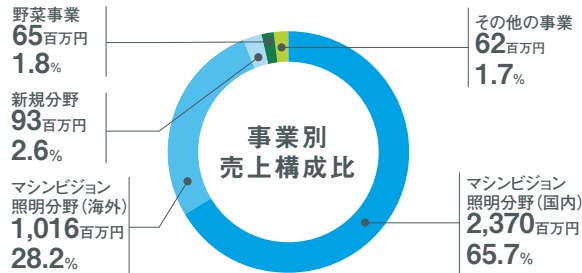


連結決算の状況

Consolidated Financial Highlights

※ 百万円未満を切り捨てています。

セグメント別の売上状況



LED照明事業

マシンビジョン照明分野

第1四半期に発売したLED光源ボックスの世界戦略品「PFB-20SW」をハログゲン光源ボックスの置き替え戦略として積極的に販売活動を実施いたしました。また、平成21年6月には、幅広い業界で好評頂いております、直接光バー照明「LDL」を全面改良した「LDL2」を発売いたしました。また、ラインセンサ市場には、ラインセンサカメラ用LED照明「HLND」や高輝度集光ライン照明「LN」を、三品業界（食品・薬品・化粧品業界）や電子部品等の幅広い市場には、ハイパワーライトシリーズ「HPD」「HPR」を戦略的に展開し拡販に努めました。

野菜事業

株式会社フェアリーエンジェルにより「てんしの光やさい」の取扱店舗数の拡大を目指し積極的な営業活動を実施しており、当連結会計年度においてスーパー・百貨店を中心に取扱店舗数は約300店舗になりました。しかし、取扱店舗数の増加に伴い、需要は増加しているものの、事業の立ち上げ段階であるため、需要に対応する生産数量・生産品種の供給が確保できなかったことが課題です。

新規分野

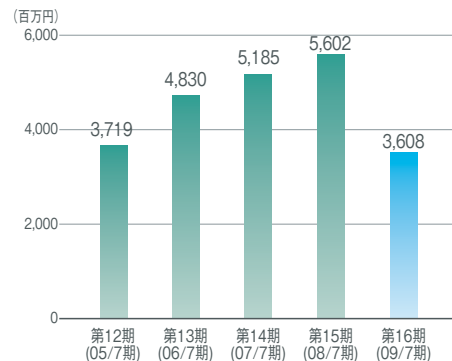
目視・顕微鏡分野では、当社が開発した業界最高の演色性を実現した「自然光LED」を搭載した製品の第1弾として、目にやさしい顕微鏡用LED照明「自然光CNR」を発売いたしました。民生・商業分野では、京都の伝統技術と当社の照明技術の融合により開発した「LEDゆらぎ照明」を発売いたしました。また、一般消費者向け販売チャネルを拡充するため、カタログ通販の京都生活を通じてネット通販を開始いたしました。自然光LEDのニーズは様々な用途にあり、新規分野ではマーケットの創造に努めてまいります。

その他の事業

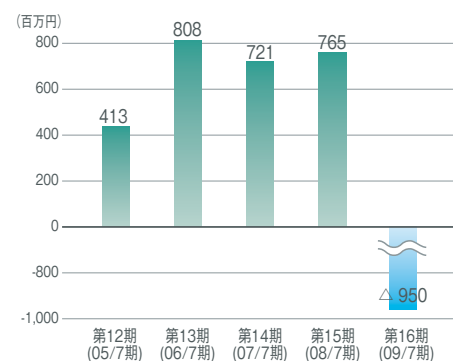
レストラン・カフェ事業は、株式会社フェアリーエンジェルにより安心安全な植物工場野菜の啓蒙、商品開発を目的として展開し、そのアンテナショップとしての一定の役割は果たしたものの、景気の後退による消費者心理の落ち込みの影響を受け、年度を通じて厳しい状況となりました。また、植物育成プラント事業は、受注の獲得を目指して積極的な営業活動を実施しております。

財務ハイライト

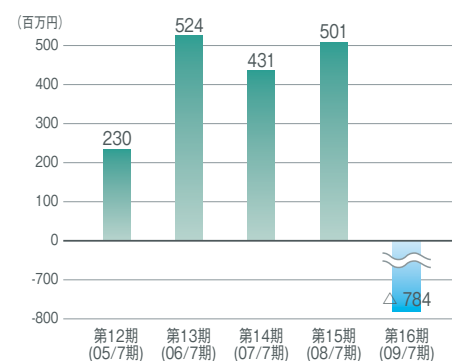
売上高



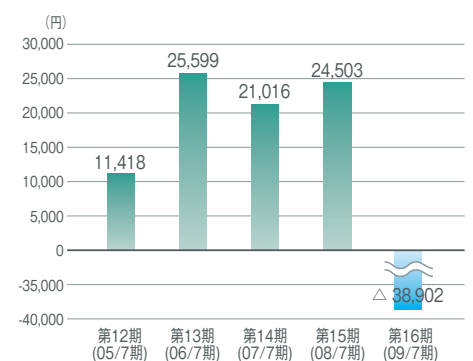
経常利益



当期純利益



1株当たり当期純利益



※ 百万円未満を切り捨てています。

■ 連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当期 (2009年7月31日現在)	前期 (2008年7月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,141	3,489
1 固定資産	3,526	1,442
有形固定資産	3,101	1,210
無形固定資産	311	112
投資その他の資産	114	119
資産合計	6,668	4,931
(負債の部)		
流動負債	1,899	873
固定負債	2,226	607
2 負債合計	4,126	1,481
(純資産の部)		
株主資本	2,537	3,446
資本金	460	460
資本剰余金	575	575
利益剰余金	1,660	2,485
自己株式	△159	△74
評価・換算差額等	△73	4
新株予約権	29	-
少数株主持分	49	-
純資産合計	2,542	3,450
負債純資産合計	6,668	4,931

1 POINT 固定資産

建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、のれん等の増加により、固定資産合計は前期末比2,084百万円増加し、3,526百万円となりました。これは、主にフェアリーエンジェルの連結子会社化によるものです。

2 POINT 負債合計

フェアリーエンジェルの連結子会社化に伴い、短期借入金、1年以内返済予定の長期借入金、長期借入金等が増加したことにより、負債合計は前期末比2,644百万円増加し、4,126百万円となりました。

■ 連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2008年8月1日から 2009年7月31日まで)	前期 (2007年8月1日から 2008年7月31日まで)
売上高	3,608	5,602
売上原価	1,562	2,005
売上総利益	2,046	3,597
販売費及び一般管理費	2,961	2,817
3 営業利益又は営業損失(△)	△915	779
営業外収益	32	26
営業外費用	66	41
経常利益又は経常損失(△)	△950	765
特別利益	-	-
4 特別損失	64	6
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	△1,014	758
法人税、住民税及び事業税	6	275
法人税等調整額	83	△18
少数株主損失(△)	△320	-
当期純利益又は当期純損失(△)	△784	501

3 POINT 営業損失

役員報酬の減額や管理職手当の減額等の人件費削減、事務効率化による経費の削減に努めたものの、売上高の減少による影響をカバーするには至りませんでした。

4 POINT 特別損失

レストラン・カフェ事業において、安心安全な植物工場の啓蒙・商品開発を目的としたアンテナショップとしての一定の役割を果たしたことから、一部の店舗を閉鎖することとし、これに伴う減損損失など特別損失64百万円を計上しました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2008年8月1日から 2009年7月31日まで)	前期 (2007年8月1日から 2008年7月31日まで)
5 営業活動による キャッシュ・フロー	△125	476
6 投資活動による キャッシュ・フロー	△501	△329
財務活動による キャッシュ・フロー	1,077	234
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△51	△1
現金及び現金同等物の 増減額	398	379
現金及び現金同等物の 期首残高	940	560
現金及び現金同等物の 期末残高	1,339	940

5 POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上高の減少により税金等調整前当期純損失となったことに加えて、仕入債務の減少、法人税等の支払いなどから、125百万円の支出となりました。

6 POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出、フェアリーエンジェル株式の取得等により、501百万円の支出となりました。

TOPIC 01
展示会出展情報

「国際ホテル・レストラン・ショー2009」

会期：2009年2月24日～27日

会場：東京国際展示場「ビッグサイト」(東京・江東区)

ホスピタリティとフードサービスの専門展示会。

当社はホテル、レストランを演出する照明としてLEDゆらぎ照明ラインナップを展示し、マーケティングと認知度向上のための活動を行いました。



店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2009」



会期：2009年3月3日～6日

会場：東京国際展示場「ビッグサイト」(東京・江東区)

店舗設計・デザイン、ディスプレイなどの製品・サービスを一堂に集めた見本市。

当社の展示ブースでは、京都の伝統技術とハイテクの融合としてLEDゆらぎ照明ラインナップを、そして業界No.1の高演色の自然光LEDを搭載した店舗用照明を展示しました。

「ライトフェア・インターナショナル2009」

会期：2009年5月5日～7日

会場：アメリカ・ニューヨーク市

建築や商業照明製品、サービスに関する北米最大級の照明業界のイベント。

LEDゆらぎ照明、自然光LEDを搭載した店舗向け照明を展示しました。海外での販売も今後進めていく計画です。

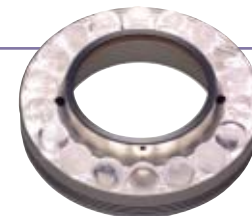


TOPIC 02
新製品情報

2009年4月発売

実体顕微鏡用LED照明
「自然光CNR」

当社独自製造の自然光LEDを搭載した実体顕微鏡用LEDリング照明「CNR-110NW」を発売しました。自然光LEDの商品化第1号となります。高演色性(平均演色評価数:98)の自然光を用いると、本来の色で忠実に観察することができます。また、網膜にストレスのかかる短波長の光が少ないため、長時間の観察時に目の負担が軽減します。



「CNR-110NW」照明部分



「CNR-110NW」電源部分

2009年6月発売

検査用直射光バー照明「LDL2」



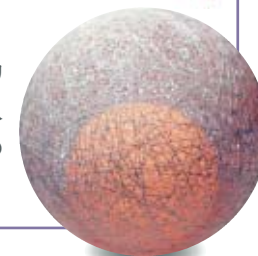
画像処理用に多様な用途に使用される直射光バータイプのLED照明を全面改良した「LDL2」を発売しました。FA現場の多様な設置環境にも自由に取り付けられるうえ、検査対象物の大きさに柔軟に対応できる業界初のフレキシブルな構造を採用。更に、赤色LED照明では業界最高レベルの明るさ(従来品の約5倍)を実現しました。

2009年4月発売

型絵染工房と共同開発、
インテリアLED照明「紙糸のゆらぎ」

和紙染色の型絵染工房(京都市)と共同で、ろうそくの炎のように揺らぐインテリアLED照明「紙糸のゆらぎ」を開発しました。照明シェード(カバー)は工房の職人が一つ一つ手作業で仕上げしており、紙糸を巻きつけた二重の球体に、当社のLED最新技術を組み合わせた立体的な光が、リラックス空間を演出します。

型絵染工房





■ 会社概要 (2009.7.31 現在)

本社所在地 〒602-8011
 京都市上京区烏丸通下立売上ル
 桜鶴岡町374番地
 TEL. 075-415-8280 (代表)
 FAX. 075-415-8281 (代表)

設立 1993年10月6日

資本金 460,350千円

従業員数 243名(連結) 192名(単独)

取引銀行 みずほ銀行・日本政策投資銀行・
 滋賀銀行・京都銀行

事業内容 ● 画像処理用LED照明装置
 および制御装置の開発、製造、販売
 ● 顕微鏡光源用、
 植物育成用、医療用、
 民生・商業用、
 その他LED応用照明の開発、製造、販売
 ● 植物プラント事業
 (野菜の販売、植物プラントの販売、
 レストラン・カフェの展開)

事業所 生産センター、光技術研究所、
 東京営業所、名古屋営業所、
 仙台テストグループ、上海駐在員事務所、
 深圳駐在員事務所

関連会社 CCS America Inc.
 CCS Asia PTE LTD
 CCS Europe NV
 株式会社フェアリーエンジェル

■ 役員および執行役 (2009.10.23 現在) <※執行役兼務者>

代表取締役社長	米田 賢治*	執行役	穂本 光
取締役	各務 嘉郎*	執行役	宮裡 静雄
取締役	松室 伸二	執行役	石井 博規
取締役(社外)	安居 幸一郎		
取締役(社外)	中河 光雄		
取締役(社外)	酒見 康史		

※2009年10月23日開催の定時株主総会で定款変更を行い、委員会設置会社へと移行いたしました。

■ 株式の状況 (2009.7.31 現在)

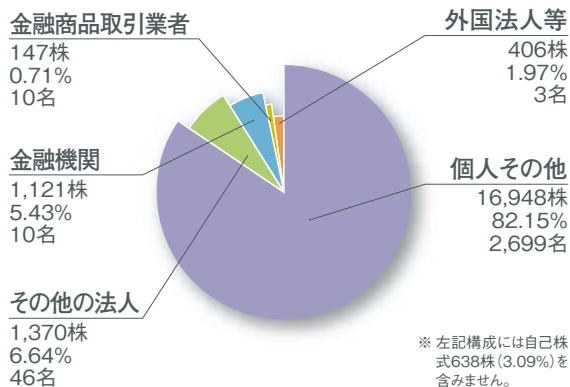
発行可能株式総数 60,000株
 発行済株式の総数 20,630株
 売買単位 1株
 株主数 2,769名

■ 大株主の状況 (2009.7.31 現在)

株主氏名	株式数	所有株式数の割合
1 米田 賢治	7,818株	39.10%
2 日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	577株	2.88%
3 株式会社サン・クロレラ	570株	2.85%
3 サン・クロレラ販売株式会社	570株	2.85%
ザ チェースマンハッタンバンク		
5 エヌエイロンドン	404株	2.02%
エスエルオムニバスアカウント		
6 シーンエス従業員持株会	392株	1.96%
7 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	306株	1.53%
8 米田 美鈴	250株	1.25%
9 安井 由美子	180株	0.90%
10 安封 昂雄	161株	0.80%

※ 所有株式数の割合は自己株式638株を控除して計算しております。

■ 株主構成 (2009.7.31 現在)



株主メモ

事業年度 毎年8月1日から翌年7月31日まで

定時株主総会 毎年10月

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 大阪証券代行業
 TEL. ☎0120-094-777 (通話料無料)

公告方法 電子公告
 公告掲載 URL
<http://www.ccs-inc.co.jp/ir/koukoku.html>
 (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

基準日 期末配当金 毎年7月31日
 中間配当金の支払いを行うときは
 毎年1月31日

上場証券取引所 JASDAQ
 証券コード 6669

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

WEBサイトのご案内

「企業情報」では、動画とイラストでシーシーエスの事業内容や強みについて知っていただける「3分で分かるCCS」をご覧ください。

「IR情報」では、財務ハイライトやニュースリリース、説明会の動画などを随時更新しています。

ぜひご覧いただきまして、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



<http://www.ccs-inc.co.jp/>

植物プラント推進の動きが活発化

食の安全、食料資源問題に対する意識の高まりを背景に、2009年4月、経済産業省と農林水産省は全国の植物工場を、今後3年間で現在の3倍の150カ所に拡大し、生産コストを3割削減するという目標を設定しました。

こうした動きを受け、植物工場への注目が集まり、同時に、当社グループに対して各方面から高い関心が寄せられるようになりました。

こうしたなか、子会社のフェアリーエンジェルが「SHITAシンポジウム」で、シーシーエスが「次世代照明技術展」で講演を行い、多くの方々にご聴講いただきました。

第19回SHITAシンポジウム 「植物工場のニューウェーブ “ビジネススキームとイノベーション”」

日時:2009年1月23日(金)

会場:中央大学駿河台記念館(東京・千代田区)

講演内容:「農業の工業化におけるパイオニアを目指して!」

フェアリーエンジェル株式会社

代表取締役社長 江本謙次

講演では完全制御型工場として国内最大級となる「エンジェルファーム福井」(2008年6月に完成)の進捗状況や、太陽電池とLED照明を組み合わせた植物栽培の実験データなどをご紹介。将来的に、省エネ型の植物工場を目指していくという中長期ビジョンをご説明しました。



第1回次世代照明技術展(ライティングジャパン)

日時:2009年4月15日(水)~17日(金)

会場:東京ビッグサイト(東京・江東区)

講演内容:「植物工場におけるLED照明の現状と将来展望」

シーシーエス株式会社 技術開発本部光技術研究所

光技術研究部 部長 武市真吾

4月17日に開催された専門技術セミナーにおきまして、これまで約10年間当社で研究を進めてきました「LEDと植物の関係」についてご紹介。事例を用いながら植物の栽培におけるLEDの優位性を解説し、今後の植物工場の展望についてご説明しました。



エンジェルファーム北山(京都・北山)
この写真は、経済産業省の「新経済成長戦略2009」および「通商白書2009」にも掲載されています。

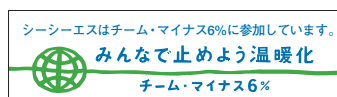


シーシーエス株式会社

〒602-8011

京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴岡町374番地

TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)



環境に配慮し、大豆油インキとFSC認証紙を使用しております。

■ 免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。